

1 伊那市における「地域おこし協力隊」「集落支援員」制度の取り組みについて

伊那市における地域おこし協力隊員は現在21名、集落支援員は18名在籍している。10年くらいで確実に増えてきている。地域おこし協力隊員は毎月業務日報を提出、半期ごとに報告を行っており、それに対し市だけでなく市長からも直接コメントが入っている。協力隊員を経て、さらに地域に深く関わっていきたいという思いで集落支援員になる人もいる。こういった県外の若い人たちの活動が地域の活性化に少なからず役立っていると感じる。

2 起業したカフェの視察 リヤコーヒーにて

地域おこし協力隊員が起業したカフェでおいしいコーヒーを頂いた。若い人が気軽に起業できる環境は良いと思う。ただ、これを長く続けていくためにはまた違った取り組みを考えていく必要はあると感じた。

全体を通じて

「地域おこし協力隊」にしても、「集落支援員」にしても、何が地域の活性化につながるのかを主体的に考えて行動しているように見えた。本来「地域おこし協力隊」「集落支援員」とは市が主体ではなく、あくまでも支援員や協力隊員自身が地域を盛り上げていく。こういった活動は時間をかけて育てていくものであり、もっと長い目で応援をしていくことが大事だと思う。